様式第１号

令和２年度　学校経営計画書

学校番号	34	学 校 名	静岡県立静岡高等学校全日制	校 長 名	志村　剛和

１　目指す学校像

(1) 教育目標

校訓　　卯高（高きを仰ぐ）

実践目標　われわれは勉強を本分とする。われわれは人に迷惑をかけない。われわれは自主的に行動する。

教育目標　校訓、実践目標のもとに、勉学に励み、豊かな感性と道徳心を備え、何事にも主体的に行動する生徒を育成する。将来、社会の様々な分野で活躍するリーダーを育成する。

(2) 目標具現化の柱

ア 基本的生活習慣を確立し、授業・部活動・家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成する。
イ 高い知性の涵養に資する授業づくりに取り組む。
ウ 進路意識の高揚及び高い進路目標の達成を目指し、きめ細やかな進路指導を推進する。
エ 生きる力や豊かな感性を培うため、部活動・特別活動等の充実に努める。
オ 心豊かな人生の実現に資する読書環境の整備に努める。
カ 生徒の成長・発達を支える良好な教育環境の整備に努める。
キ 高い資質・能力を備えた教職員集団であるべく、常に研究・修養に努める。
ク 生徒・保護者及び県民から信頼される学校づくりに努める。
ケ WWL 事業、コアスクール事業、国際交流等を通して、生徒のグローバルな視野の育成に努める。
コ 働き方改革や新学習指導要領への対応等、今日的な教育課題に対し組織的に取り組む。

２　本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	**毎日の学習及び生活のリズムを確立する**	○初期指導（学校生活、学習習慣、スマホ利用等）の徹底 ○常日頃からのあいさつの励行	○「規則正しい生活をしている（生活リズムが確立している）」と自己評価する生徒 70%以上 ○「あいさつができる」と自己評価する生徒 80%以上	生徒課 各学年
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心を喚起する	○ICT を活用した授業実践 ○教員相互による授業参観 ○生徒による授業アンケート ○「高校生のための学びの基礎診断」測定ツール（※）の活用による的確な学力把握と指導の改善	○授業を大切にする生徒、主体的に学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容がよくわかる」と自己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 90％以上	教務課 研修企画課 情報処理課
ウ	**低学年からの高い志の育成に努め、進路実現を図る**	○進路講演会、大学訪問、コアスクール事業等による卯高の精神の涵養	○進路行事実施後の進路意識の向上 ○第１志望（３年次当初）の大学に出願する生徒の割合 70%	進路課 総務課
エ	**学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに社会に貢献する**	○学校行事や各部活動の充実 ○各部活動にあった社会貢献活動の取組	○学校行事、部活動に積極的に取り組む生徒 90％以上 ○1 部活 1 社会貢献活動	生徒課 各部顧問
オ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	○朝の読書週間、ホームルーム読書会、図書館開放	○朝の読書週間　年２回実施 図書館開放　年 250 日以上	図書課
カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる	○不安や悩みを抱える生徒の支援(スクールカウンセ	○学期１回以上の校内情報交換会	教育相談室 保健厚生課

様式第１号

	校内環境を整備する	ラーの活用） 〇朝の健康観察 〇日常の清掃活動、定期的な安全点検	〇健康観察を通しての情報共有 〇学習環境の美化に努める生徒の育成、学期に１回の安全点検	
キ	職員の校内外の研修を充実させる	〇「主体的・対話的で深い学び」「総合的な探究の時間」等をテーマとした研修の実施	〇「育てたい資質・能力」を意識した授業改善に向けた研修機会の充実	研修企画課
ク	**新学習指導要領に対応した教育課程の編成の実施及び土曜オープンスクールの充実を図る**	〇教育課程検討委員会による検討及び編成 〇ホームページによる広報、情報発信	〇「カリキュラム・マネジメント」の視点からの教育課程の編成 〇中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ 1000 人以上	教務課 情報処理課 全員
ケ	校内外のプログラムの活用を通し、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する	〇コアスクール事業、WWL 事業等の校内外のプログラムの活用	〇参加生徒、教職員の視野の拡大 〇各種プログラム参加者の増加と意識の向上	研修企画課 全員
コ	**「学校における働き方改革」に組織的に取り組む**	〇各教職員の主体的な取組の推進による業務の合理化 〇職員安全衛生委員会等の活用	〇月 80 時間を超える時間外勤務教職員の前年比 15%減 〇教育活動の検証、業務改善等、組織的改善の推進	全員

※　「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール：本校においては「静高模試」及び「学力テスト」